

特別展 開山 小尾権三郎

開催期間 平成 30 年

4 月 28 日 (土) ~ 7 月 1 日 (日)

～上古田を中心とする信仰と甲斐駒ヶ岳～

甲斐駒ヶ岳を開山した延命行者 小尾権三郎 (1796-1819) は、信濃国諏訪郡上古田村 (現在の茅野市豊平上古田区) の生まれで、甲斐駒ヶ岳の開山を志し、文化 13 (1816) 年に開山に成功しました。しかし、小尾権三郎は、開山の後、24 歳の若さでこの世を去りました。

小尾権三郎は、威力不動尊となり、没後、威力不動堂が地元上古田に建立されました。

今回の企画展では、開山 小尾権三郎の遺品や自画像などとともに、威力不動堂について展示します。



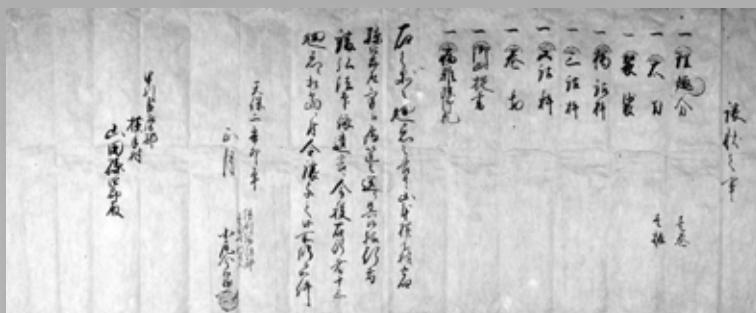
延命行者 (小尾権三郎)
自画像

(上古田区蔵)

開山 小尾権三郎は、寛政 8 (1796) 年、父 今右衛門の次男として、上古田村で生まれました。行者名を延命行者・鐺弘法印・弘幡行者・広幡行者といい、また威力不動尊 (威力大聖不動明王) ともいいます。

文化 13 (1816) 年に甲斐駒ヶ岳を開山しました。その後、文政 2 (1819) 年に 24 歳の若さで没しました。死亡した理由は、病死、土中入定、法難死等諸説ありますが、よくわかっておりません。

この絵は、権三郎の自筆によるもので、右手に錫杖、左手に三鈷杵を持ち、岩に腰掛けています。



譲状之事 天保 2 (1831) 年 1 月 (個人蔵)

小尾権三郎の父、今右衛門が、甲斐国巨摩郡横手村 (山梨県北杜市横手) の山田孫四郎に権三郎の遺品を贈ったときの譲り状です。理趣分・太刀・袈裟・独鈷杵・三鈷杵・五鈷杵・巻物・御山掟書・病難除御札の 9 品を贈ったことが記されています。山田孫四郎久義は、権三郎が甲斐駒ヶ岳に登るにあたり、多大な援助を行った人物で、権三郎は大変恩義に感じており、死去したときに、山田家に遺品を贈るように、遺言したと記されています。

山田久義の次男 嘉三郎は、権三郎を開祖とする駒ヶ岳講を横手村で結成し、「二代開山」を名乗りました。嘉三郎の弟 久休が「三代開山」、久休の息子 紋次郎が「四代開山」となり、遺品も現在まで山田家に大切に伝えられています。



目録 昭和 5 (1930) 年 1 月 (上古田区蔵)

昭和 3 (1928) 年に威力不動堂が焼失し、再建されることになり、昭和 4 年 10 月 17 日に落成式が行われました。その後、法具や宝物が改められ、目録が昭和 5 年に作製されました。

この目録によれば、自画像以外に、権三郎自筆の掛軸が 5 点あることがわかります。

威力不動尊東遺跡第 1 号溝址

威力不動尊の東側は、威力不動尊東遺跡です。平成 9 年度に発掘調査が行われました。

縄文時代前期末葉から中期初頭と中期後半の遺構等が検出されました。その他に、溝が 1 条検出されています。威力不動尊東遺跡の東側は師岡平遺跡ですが、この溝は、師岡平遺跡から引かれていると考えられます。

この溝は、上端幅 35~40cm、下端幅 29~33cm、深さ 62cm の直立する壁を持ち、発掘できた範囲だけで約 170m の長い溝です。底部には平らな石が敷き詰められており、非常に丁寧に作られています。

内部から、明治 9 (1876) 年の一銭銅貨が出土しており、明治 9 年以降の遺構であると考えられます。師岡平遺跡から威力不動尊へ向かって作られている溝であるところから、威力不動尊へ水を引くために作った水路ではないかと推測されます。

